

保護者の皆さま

平成 28 年度「全国学力・学習状況調査」の結果について

千早赤阪村立赤阪小学校
校長 安 尾 健 也

今年の 4 月 19 日に実施しました標記の調査（6 年生対象）の結果及び学校として行った分析と考察（本校 6 年生児童の実態と今後の課題、改善点等）について、お知らせします。

調査結果について

- 調査の結果は、正答率という形で百分率で表されます。（ほぼ百点満点での点数と考えていただいても結構です。）
- 本校 6 年生の在籍児童は 18 人で、6 年全体の中での一人の占める割合が大きく、一人の結果が全体の数字に与える影響が大きすぎますので、正答率の単純な比較は統計的にあまり意味がありません。ですから、学校としては一人一人の結果や課題を明確にして、今後の指導に生かしていくことを重視しています。本紙面では、個々の課題を掲載することができませんので、一応、全国や大阪府の平均正答率を参考にしながら概略を報告させていただきます。
- 本調査により測定できるのは、学力の一部（数値化）に限られ、学校における様々な教育活動の一側面に過ぎないことをご理解ください。



国語科の調査より

A調査(主として知識)について

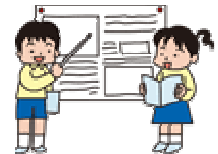
大阪府平均正答率を少し上回り、全国平均正答率とほぼ同率です。

国語科の領域として

- ①「話すこと・聞くこと」
- ②「書くこと」
- ③「読むこと」
- ④「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」

の 4 つの領域があり、それぞれに関する設問があります。

①「話すこと・聞くこと」では、話し合いの様子を読み、その内容の説明として適切なものを選択する設問でしたが、全国平均を大きく上回っていました。④「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」では、漢字の読み書きは、全ての設問で、全国平均を上回っていました。



ただ、ローマ字の定着が平均を下回っており、今後の課題です。②「書くこと」 ③「読むこと」については、ほぼ全国平均と同じです。ただ、③「読むこと」の設問の一つで、公園案内図とパンフレットに記載されている表を関係付けて読み、希望に合う場所を選択する内容では、全国平均より下回っていました。複数の条件の関係性を読み説く問題で、課題があるように思われます。

B調査(活用力)について

A調査と同様、大阪府平均正答率を少し上回り、全国平均正答率とほぼ同率です。

B調査は、①「話すこと・聞くこと」 ②「書くこと」 ③「読むこと」で設問が構成されていました。

①「話すこと・聞くこと」では、スーパーマーケットの店長へのインタビューを通して、事前に準備しているインタビューメモや実際のインタビューの様子から、要点や意図を読み取る設問でした。目的に応じて、質問したいことを整理するメモに関しては、全国平均を大きく上回っていました。ただ、それらの内容からインタビューする人の意図まで読み深める設問になると、少し正答率が低くなっています。記載された文章から、さらにその奥にある部分まで読み取る点で課題があると思われます。②「書くこと」では、目的や意図に応じて自分の考えを書く設問で、全国平均より少し低い正答率でした。字数制限(25字以上50字以内など)でまとめて書くという点では少し課題があります。③「読むこと」では、パン職人に関する資料や職人さんへのインタビューが資料として記載されており、それらを読み取って回答する設問です。最後に「内容をまとめて書く」という問いもありましたが、どの問題も全国平均を大きく上回っていました。

算数科の調査より



A調査(主として知識)について

大阪府平均正答率、全国平均正答率とともに少し下回りましたが、有意(意味がある)と思われる差(※)ではありません。

算数科の領域としては、

①数と計算 ②量と測定 ③図形 ④数量関係 があります。

①数と計算では、ほとんどの計算で、正答率は全国を上回っているか、またはほぼ同率という結果でした。ただ、「 $905-8$ 」などの繰り下がり引き算や「 $7.1 \quad 7 \quad 7.01$ 」の大小関係を問われる設問での誤答が少し多い結果でした。②量と測定では、面積に関わる単位量や三角形の面積に関する設問でしたが、全国平均を少し上回っていました。③図形では、図形の構成要素に着目した図形の構成に関する設問でしたが、たいへん誤答が多い状況でした。また、④数量関係での「前に10人、後ろに19人並んでいることを基に、列に並んでいる全体の人数

※【有意差】このような調査の場合、5%以上の差は、何らかの意味がある可能性があると考えられています。

(裏面へ続く)

を求める式と答えを書く」という設問での誤答が多く、示された場面を適切に読み取り、立式していく力の定着に課題があると思われます。A調査は基本的な設問が多く、しっかりと身につけていない学習部分については、復習等で定着をめざします。

B調査(主として活用)について

A調査と同様、大阪府平均正答率、全国平均正答率をともに少し下回りましたが、有意と思われる差ではありません。

①数と計算 ②量と測定 ③図形 ④数量関係の4領域ですが、主として活用を目標とした設問ですので、4領域ごとではなく、組み合わせられた設問が多いです。

誤答が多かったのは、②量と測定の領域で、縦や横の長さを変えることによって、面積がどのように変わっていくかを、式を立てたり、言葉で説明する設問です。考え方の見本例は記されていますが、論理的に考えて回答するというような自分の知識を活用する部分に課題があります。また、①数と計算と④数量関係に関する設問でも誤答が多く、全国平均を下回りました。ハードル走で、第1ハードルまでの長さが与えられています。ハードル間の長さも与えられています。その時の第4ハードルまでの長さを求めたり、さらに目標タイム設定の考え方が表されており、与えられた条件で目標タイムを算出したり、また、目標タイムを算出する際に使用する基本数を言葉や数で表したりするような設問です。設問文章をしっかり読み取り、一つ一つの知識をつなぎ合わせていく設問形態に大きな課題がありました。全国平均を大きく上回っている設問としては、②量と測定と③図形の複合問題で、図形を構成する角の大きさを基に、四角形を並べてできる形を判断する内容でした。

B調査は、活用する力を大きく問われる設問構成になっており、問題を読み取る力も大きく必要とされますし、数学的な考え方も求められます。自分自身で問題に向かっていく力が大きく試された状況であり、今後、さらに思考、判断などの要素を踏まえた授業作りに努めていきたいと考えています。

学習状況アンケート調査より

児童質問紙によるアンケート調査から、全国平均と比較して違いが大きい設問から見えてきた内容をいくつか分析し、考察します。

「朝食を毎日食べていますか」「毎日同じくらいの時刻に起きていますか、寝ていますか」などの基本的な生活習慣に関わる項目については、肯定的な回答率が大阪府や全国より上回っていました。また「家で自分で計画を立てて勉強していますか」についても、肯



アンケート調査の大体の回答形式は……

- 1 している (当てはまる)
 - 2 どちらかといえば、している
(当てはまる)
 - 3 あまり していない (当てはまらない)
 - 4 全く していない (当てはまらない)
- であり、1、2は肯定的な回答、3、4は否定的な回答として分析しています。

定的回答率が70%を超えて、全国を上回っていました。「ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがありますか」という質問事項については、肯定的な回答で100%を占め、達成感や成就感をしっかりと持っているといます。

「家で、学校の宿題をしていますか」の質問に肯定的な回答率は100%でした。ただ、予習、復習をしているかについては、肯定的回答率はかなり低い数字となっています。学び方を学ぶという点では、家での学習内容について、自分自身で考えて取り組むことも大切であり、今後の課題と考えています。

「家の人(兄弟姉妹を除く)と学校での出来事について話をしますか」や「家の手伝いをしますか」という質問への肯定的な回答率が全国平均より大きく下回っていました。家族の一員としての自覚という意味も含め、子どもたちの成長にとっての大事な側面でもあるかと思われます。時間的な余裕がない等の課題もあるかと思われますが、ご家庭でもご一考いただければと思います。

昨年度の調査(対象は昨年度の6年生)と同じような結果になった質問項目の一つに、「自分には、よいところがあると思われますか」があります。否定的な回答率が約47%であり、全国平均を大きく上回っています。自分の良さや自分のできることにもっと自信をもってほしいと思います。そのためにも周りの人が、お互いに良い面を認めていく姿勢が必要です。自分を大切に思う心「自尊感情」をもっと高めていけるよう、学校の間としても課題として取り組んでいきたいと思います。是非、ご家庭でも、子どもたちへの認める言葉がけをお願いいたします。

さいごに・・・



本校では、これらの分析結果を、学校での指導法の工夫や家庭での学習の取組みに生かしていきたいと考えています。冒頭に記述しましたように、あくまで、一人一人の子どもたちの学力の定着を確認し、今後の指導に生かすことが一番の目標です。ただ、分析を通して、学校全体としての課題と思われる内容については、学校教職員でしっかり共有し、研修を深めたいと考えています。

子どもたちは、家庭と学校と地域の協力によって、健やかに成長します。ご家庭におかれましても、お子さまのよりよい成長に向けた家庭環境づくりに、より一層のご配慮をいただきますよう、よろしくお願いいたします。

また、今後も、何かお気づきの事やご意見がございましたら、ご遠慮なく、担任をはじめ教職員にお伝えください。

